

## 気仙沼高等学校 SGH プログラムのフィールドワークの受入れを行いました(2018/12/15)

テーマ：スーパーグローバルハイスクール，防災教育  
 場所：東北大学災害科学国際研究所（宮城県仙台市）

12月15日（土）に、宮城県気仙沼高等学校から生徒68名15グループが、当研究所を訪れました。同校は、スーパーグローバルハイスクール（SGH）の指定校の一つになっています。SGHは、文部科学省の事業で、高等学校等におけるグローバル・リーダー育成に資する教育を通して、生徒の社会課題に対する関心と深い教養、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的素養を身に付け、国際的に活躍できるグローバル・リーダーの育成を図ることを目的としているものです。気仙沼高校は、「海を素材とするグローバルリテラシー育成～東日本大震災を乗り越える人材をめざして～」というプログラム名で、SGH事業に採択されています。今回は、SGHプログラムで実施されている「地域社会研究」「課題研究Ⅰ」の一環での訪問になります。「地域社会研究」では、同校1年生が3～7名のグループになり、プログラムに関連する任意のテーマについて研究を行うものです。「課題研究Ⅱ」に2年生の一部が率先して取り組む研究活動です。今回の訪問は、東北大学災害科学国際研究所ほか、宮城教育大や東北工業大などを訪れ、専門の研究者に、質問をしたり、情報収集を行う「フィールドワーク」として実施されたものになります。

当研究所では、佐藤翔輔准教授（情報管理・社会連携部門）、佐々木宏之助教（災害医学研究部門）が、同プログラムのアドバイザーになっています。参加した生徒さんは熱心に質問をして、ノートにメモをとっていました。同校のフィールドワークは、3年間で計3回受入れを行っていますが、今回は例年の倍以上の生徒さんにお越しいただきました。

### 佐々木宏之担当

- 125-17 班 今までの震災の経験から災害医療について何か変わったのか
- 125-22 班 高校生が意識することでもたらされる防災とは？
- 345-22A 班 快適でストレスの無い避難生活を送るために
- 345-22B 班 防潮堤の必要性和自助の大切さについて
- 125-23 班 住みよい町の為の医療に必要なことは何か
- 565-23 班 日本と海外の災害医療の違いから気仙沼に取り入れられることと私たち高校生ができること
- 345-24 班 東日本大震災を踏まえた安全な避難所の環境とはどのようなものか
- 565-24 班 東日本大震災のような災害が再び発生した際に現在ある津波避難計画がいかにせるか

### 佐藤翔輔担当

- 345-17 班 震災前よりも気仙沼市の地震・津波に対する防災活動は盛んになっているか
- 565-17 班 災害の知識を持つことは、減災につながるのか
- 345-21 班 現在の都市計画よりも津波による被害を減らすための良い都市計画はないか
- 565-21 班 PTSDを防ぐには防災教育は有効であるか？
- 2年生 A さん 限られた土地で交通がスムーズな道路を作るためには？
- 2年生 B さん 風化に抗う～震災を経験した私から～



アドバイス内容を整理している様子



面談の様子

文責：佐藤翔輔（情報管理・社会連携部門）